

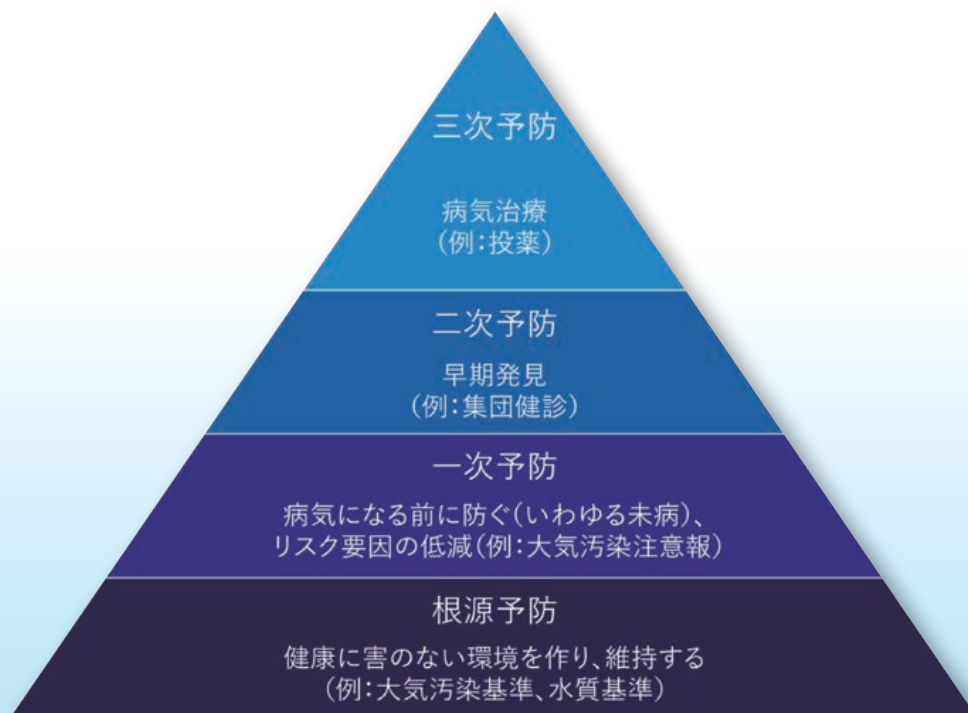
子どもの環境保健 —わたしたちの未来について—

環境リスク・健康研究センター 中山 祥嗣

私たちは、常に、周りの環境からの影響を受けながら生きています。この場合の環境は、空気や水、食事など、体の中に取り込むものから、建物や気温、湿度、都市や田舎の空間、身の回りの製品など、私たちが都度接しているもの、さらには、家庭や学校、職場など、人どうしの関わりあいも含まれます。私たちは、家庭の収入や教育歴、あるいは微生物、そういう私たちが生きていく上で関わるすべてのもの(=環境)から、影響を受けます。私たちが私たち自身を作り上げる胎児や小さな子どもの時期(=発達期)は、体の様々な器官が形成される重要な時期で、この時期の環境の影響は、大人になってから現れることがあることが知られています。子どもが発達期(胎児期や幼児期、小児期)に接する環境を調べ、その子どもたちや大人になってからの影響を調べることで、発達期の環境をどのようなものにすれば、より健康に生きることができるかを知ることができます。



このように、私たちが環境に接すること、さらされることを、「ばく露」といいます。私たち国立環境研究所では、子どもたちがどのような環境にばく露しているかを、できるだけ詳しく調べるための研究を行っています。特に、母親を通じた胎児期や幼少期のばく露について、質問票による調査法の検討や、血液や尿などの生体試料を用いた推計法、土壌やほこりなどの環境試料の測定、その他さまざまな手法を用いて研究を進めています。このように、周りの環境が子どもたちの健康と発達にどのように関係するかを調べることによって、未来の子どもたちが健やかに成長できる環境をまもりはぐくむ「根源予防」に貢献します。



予防医学のピラミッド